

夕刊 警城新聞

行發日二月六 文一... 刊日界日

高瀬勝男

箱、日に伸びてゐる。知に成れ、でもともへは、はやらぬまに、どの、それぞつたりなかりやしない様も變つてゐる、昨日迄はとつきまわる箱、すすく思ふ、うち早や古く昔となつて、育つて立派な竹に

山 峽

私も掻きあつめて疲れてゐた。解の葉をばたばたと揺りまわつて立ち上ると、親みこみて言葉をかきながら、むごに産産に添つて鏡の中

丙子閏三月若葉の高野鑛泉行

三つ児の魂は、尊い資性であらうが荷尼介な代物。噫、嘆息して手も足も出ない張子玩具、育つ程に不自由なこと凡そ五尺のからだをもてあます、惨めさだ

高橋是清

『鳥を狙ふと見せかけて、柿の實を狙ふてみたさうだの！』 信太夫が笑つた。 『それは和尚様のお考へちがひです。』

御宴會

松印 3.50 竹印 3.00 梅印 2.50 御宴會七品付 (外果物、御飯香物) 御飯代、御酒、入浴料、サービス料

先月御宴會にお見送りの時以後の學問は、維て科擧和尚様とお話なされて、ごと言ふものに守脚してゆかざりました。もうお忘れなければならぬ。今も假令でございませうか? 『いや、これは...』



久野電機 電話七二二番 久野電機 電話七二二番 電話七二二番

平製米會 電話二二八三番 平製米會 電話二二八三番

高島屋 洋服 電話四七五番 高島屋 洋服 電話四七五番

需要の數字が物語る 明朗な石炭界の前途 増送一點張りの最近統計

各種工業の物需に因る所謂前年同期に比し 營業用の需要増加、カッリ 營業用の需要増加、カッリ 營業用の需要増加...

鮫川堰問題解決 小名濱町で三萬圓負擔 愈第二期工事へ

既報組合側と縣當局との設計の相違から昨年度は遂に工事の施行を見なかつた組合側の交渉により...

素人義太夫天狗連 自慢の餘技を發揮 明夜丸十で温習會

毎回好評を博して 居る平町義太夫若 兼合のおさひひ合...

夕の調情

午後六時よりマートモホ ールに於て開催するが語り 物次の如く語り手が醫師...

入登太夫 千代萩政岡忠 漁季に入ったので小名濱町 大休年と大差はない来る十順調な程を進めて...

五百數十年前の 武士戦死者供養碑 足利戦死者供養碑

足利戦死者供養碑 神谷村で貴重な史料発見 今を去る五百數十年前の歴史を求めた...

早期田植 平澤村で凶作克服 多收

平澤村では凶作克服、多收 穂の方面から考へ去る四月 碑面の文字は、『貞和五でこれをいれるを造り...

四圓五十錢台でも なほ儲けは充分だ! 開場近き四倉市場に期待集る

白最高五圓三十 九錢! 全国的標 準相場をたてる 沼津の初取引は今年もまた 爆発的高値を示したので愈...

養蠶家御用心! 一棟、馬二頭を焼く 山間、三阪村の火事

三十一日午後八時半頃火 住家、非住家各一棟を焼い て鎮火した、原因は養蠶乾...

收繭量は約六萬貫 順調な郡下の蠶況

小川方面の早い方面では非頃が最盛期だらう、昨年は 初初より遅くも今月十日頃降霜のため山間方面には遅...

突然炭車が逆行 死傷六名を出す 今朝佳吉坑内の椿事

二日前八時半頃内郷村字高坂野野吉坑内で石 炭を満載した六台の炭車を捲上げ中突如逆進行...

果敢の吉田巡查 四萬の住民を救ふ 功勞勲章に輝く義勇

日本警察に河川田畑一 面大海原化した中を乗 馬に鞭打ち途中幾度となく...

火を吐く漁船 けさ小名濱沖合の騒ぎ 原因は煙突の過熱?

原因は煙突の過熱? 原因は平暴で取調の結果 煙突の過熱によるものらし...

不二タクシ 電話三二番

昨日一日から法律が経済的提携に新面目を打明するもの勝てば何とやら、斯うなると侵略國...

口取一〇 十圓四十錢也の勘定書 きて見るとや、金なんて拂つ...

電話開通記念 大景品附大特賣... 松村醫院 院長 松村鐵郎 平町南町電一〇七

天下堂 電話七二五番 祝品賣出し 五月 御座敷幟揃セツト 武者人形 陳道具揃セツト

柳津虚空藏尊參詣 期日 六月十日午前八時出發 會費 金五圓、御一名様往復

尼子自動車商會 遊覽部 電話六四〇 主 遊覽部